

感謝・責任・希望を胸に



終了後、恩師らとともに記念写真に写る新成人のみなさん

一之宮まち協だより

第21号

平成28年2月1日

一之宮町
まちづくり協議会
広報委員会

高山市一之宮町3087
電話 53-2424



自己紹介で現況や希望を語りました

「新成人を祝うつどい」が1月2日に一之宮公民館で開催され、新たに大人の仲間入りをした21人が出席して参加者から祝福を受けました。

つどいは一之宮町まちづくり協議会や一之宮支所、新成人とその親など19人で構成する実行委員会が企画。会場には小中学校時代の恩師や関係者、来賓のほか、新成人の家族約40人も参加しました。

式典は、会場の拍手で迎えられ、新成人の入場で開始。主催者を代表して田邊重敏実行委員長がお祝いのあいさつを述べ、続いて記念品が新成人代表の山本匠二さん



「桜」を合唱する成人のみなさん

21人はそれぞれ自己紹介して、周りへの感謝や将来の夢、責任などについて語りました。続いて牧田朋之さんと中島朱音さんが代表して「私たちの抱負」を発表しました。牧田さんは「最近言葉使いが変わったといわれて自分でも驚いている。お客さんと接することが心地よくそのようになったのだと思う。これからもお客さんに期待される人になりたい」、また中島さんは「やった後悔よりやらない後悔の方が大きい」と言われた中学校時代の先生の言葉を胸に、自分の言動に責任をもって、可能性を信じ社会で生きていきたい」などと抱負を述べました。

市が募集した「私たちの思い一行詩」では、佳作に選ばれた野中佐恵さんの作品「草木の香り、川の音、何気ない故郷で過ごした日常。離れてようやく気がついた故郷の美しさ」が紹介されました。

来賓として出席された役田武高

山市社会教育委員議長や國島芳明市長から祝辞や激励の言葉が、また、中学校時代の恩師の下通浩子先生からは、「みなさんは宮中の校風の『磨く』を一生懸命実践した旧校舎の最後の卒業生。ささやかでもいいので自分が頑張っている姿を語れる大人になってほしい」とお祝いの言葉が贈られました。

新成人を代表して井上亮平さんがお礼のことは述べた後、新成人の門出を祝って、小学校時代の恩師の松野園子先生の発声で会場全員で乾杯をしました。

スクリーンでは、小学校時代からの「思い出のアルバム」が上映され、会場は新成人たちが成長してきた足跡を懐かしく振り返っていました。

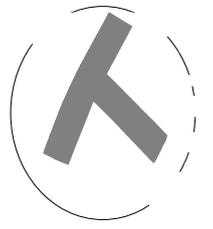
最後に、新成人がコブクロの「桜」を合唱し、続いて会場全員で「ふるさと」を歌って閉会しました。

21人の新成人のみなさんが今後大人として、自分の目指す「自己実現」に向けて活躍することを祈念します。

新成人のみなさん

(順序不同、敬称略)

新井千夏 野中佐恵 井上亮平
早川玄城 井ノ下雄紀 牧田朋之
小野翔大 南翔真 坂下美貴
南英明 下田圭佑 山際あさひ
田中雄太 山腰智也 谷本廉太郎
山之内寛人 内木栄治 山本匠二
中島朱音 山本琢二 中島徹哉



ボランティアで青パト巡回 地域の安心・安全守り20年

向 良廣 さん

(洞下)

昨年、警察庁、全国防犯協会連合会から一之宮町地域安全パトロールが表彰を受けました。今月の「まちよ

名が参加されています。向さんはその開設当初から参加されています。

発足当初は、徒歩による周辺の見回りやコンビニでの未成年者へ早期帰宅の呼びかけを行ったり、年末に金融機関での街頭啓発を行ったりするなど、自家用車で巡回をされていたそうです。平成24年、青パト車を寄贈していただき、巡回に青パト車の使用を始めました。その車で月5回、一之宮地区から段地区へ、そして久々野駅の方へメンバー数名で巡回してみえます。

可があるとのこと。この組織は平成9年から宮村地域安全協議会として結成されました。当初13名で開始し、現在中学校PTAや高校生父母の会も入会され20数

これまでの巡回の中で、トラブルがなかったかと尋ねると、事件で警察が出勤していた騒々しい現場に出くわしたことや橋の下でバーベキューをしている酔っ払いにでくわしたりしたそうです。しかし、何か事件的なことがあると駐在所へ連絡し警察官と対応されるそうです。

その青パトの中心者の向さんは、公民館等の運営をする一之宮町公的施設管理室の室長をはじめ、社会福祉協議会の車の運転、野球では審判や連盟の役員を長年務められ、今は県の野球連盟の原理事でもあります。

多方面で活動される向さん、今後もお体に気を付けて地域のために活躍ください。

(山腰)



青パトの前で賞状を手にする向さん



絵手紙との出会い

井口 啓子 さん (絵手紙クラブ 奥)

平成11年、当時宮村の村民会館(現一之宮公民館)で宮村文化協会の成人講座として絵手紙講座の募集がありました。講師は宮村出身の堀之内てつ子先生でした。ちょうど絵手紙がテレビ等で注目され始めた頃で、私も好きな花をかいてみたいと申し込みました。研修室に机をたくさん並べて20人あまりの受講者がありました。初めてかいたピーマンは手が震えてとても読めるような字がかけなくて難しかったのを覚えていています。

9回の講座を終え、その年初めて文化祭に絵手紙を出品しました。当時宮村の文化祭には、絵画・写真・水墨画・書道・俳句・短歌・生け花・菊花・盆栽・手芸・陶芸・工芸等々たくさんの作品が公民館いっぱい飾られ、見ごたえがありました。近年は出品者も出品数も減ってきてさびしく思います。

絵手紙は2階の視聴覚室で展示することになりました。前日準備をしていると、文化協会長だった山腰曠さんが様子を見に来て、「お前たち、上手にかけたな。色はもうちょっと丁寧に塗ったらどうや」と声をかけて下さいました。誰かが「私達のは、『絵はヘタでいい、ヘタがいい』やし、『色はタッタッタと塗りましょう』というありがたいやつなんやさ」と答えてみんなで笑いました。

あれから早いもので今年で18年目となりました。「絵手紙クラブ」はその時の講座の仲間が中心となって現在に至っています。

10年前に公民館で放課後児童クラブに携わるようになってからは、みんなで育てたジャガイモや大根をかいたり、学校の帰りにつかまえてくるバツヤやカマキリ、カエルをかいたりして楽しんでいます。子ども達は3年間かきためた絵手紙を一冊の折り帳にまとめて児童クラブを卒業していきます。

6年前、女性部の講座で始まった絵手紙はその後「絵手紙さくらクラブ」となりました。

18年前、絵手紙と出会ったおかげでたくさんの方と知り合い、色々な経験ができました。「絵手紙友の会」の全国大会では毎年日本各地を訪ね、研修と交流とスケッチを楽しむことができます。今年の大会は鹿児島です。

堀之内先生に誘っていただき、海外へも絵手紙スケッチに出かけました。アンコールワット遺跡・兵馬俑・万里の長城・エーゲ海の島々・マチュピチュ遺跡等々、その場で味わった感動は何ものにもかえられません。

私たちはいつも公民館から皆さんに絵手紙を発信しています。2・3月は年賀状交流展をしています。公民館に来られたらゆっくり見て下さい。そして興味のある方はぜひ一緒に絵手紙を楽しみましょう。絵手紙との出会いは新しい自分との出会いになるかもしれません。



作品の前で

お知らせコーナー

発電機・投光器の貸出をします

まち協では、災害時の停電等による緊急的な電源確保による生活支援に対応するために、発電機・投光器等の機材を貸出します。

貸出対象者：一之宮町内の住民、町内会、班、その他町内で活動する団体等
機材は一之宮公民館に保管してあります。
借入方法等詳しいことは、まち協事務局まで
(53-2424)



発電機



投光器

花の種・苗の申込みについて

高山市民憲章推進協議会では、毎年 希望される団体に花の種・苗を配布し、各団体の「花いっぱい運動」を支援しています。平成28年度分の花の種及び苗の申込みを下記の通り受け付けています。なお、平成27年度花いっぱい運動に協力いただいた団体にはすでに案内が送付してあります。

提出先：一之宮まちづくり協議会
提出方法：窓口・郵送・FAX
締切り：2月15日(月)
申込書はまち協事務局まで



市民と市長の対話集会

日時：2月16日(火) 午後7時～8時30分

場所：一之宮公民館和室

市長と意見交換できる良い機会です。多数のご参加をお待ちしております。



確定申告相談について

日にち：2月18日(木)・19日(金)・22日(月) の3日間

時間：午前8時30分～午後5時15分

場所：一之宮支所

注) 「土地建物・株式の譲渡」「住宅借入金等特別控除」「肉用牛の売却」の申告、青色申告相談は高山税務署開設の相談会場で申告をお願いします。高山税務署開設の相談会場は昨年同様高山市民文化会館です。

国道41号宮峠トンネル『一之宮町』工事説明会について

日時：2月18日(木)午後7時～

会場：一之宮支所 大会議室

内容： 要望事項への対応について

現在 施行中の工事進捗状況と
予定 について
トンネル工事計画・
施工方法について
水文 調査状況報告に



図書館だより

寒い日が続きますね。学習や読書に図書館をお役立ててください。

お知らせ

「一之宮分館」蔵書点検による休館のお知らせ

2月16日(火)～19日(金)

期間中、一之宮分館へは入室できません。

本の返却は返却ポストをご利用ください。

CD・DVD・ビデオや高山市図書館以外の図書館から借りた資料は開館日にカウンターで返却してください。

今月の特集

お部屋であそぼう！

折り紙・なぞなぞ・迷路など、みんなで遊べる本を紹介します。

おはなし会のご案内

2月20日(土) am10時30分～スタツフによる絵本の読み聞かせ・手遊び。

申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。



公民館から

展示コーナー

絵手紙さくらクラブ作品展 (3月中旬まで)

2月の公民館定休日

8日(月) 12日(金) 22日(月)

2月の位山交流館定休日

1日(月) 8日(月) 15日(月)

22日(月) 29日(月)

一之宮町の人口情勢

世帯数	816戸		合計
	男性	女性	
0～14歳	185	156	341
15～64歳	696	724	1,420
65歳以上	343	461	804
合計	1,224	1,341	2,565

1月1日現在・単位：人

23	16	13	4	日
火	火	土	木	曜
町内会長会(公民館)		市民と市長の対話集会(公民館)		行事内容
		サタデイサークル		行政相談・心配ごと
		結婚相談(交流館)		

編集後記

新年が始まり1月が過ぎようとしています。今年の暖冬は、4年ぶりとか言われていますが、私も記憶にないです。暖冬でスキー場や冬服、道具などの製作販売者には痛手でしよう。何事もいつも中庸がよいと感じています。

(山腰委員長)

つぶやき

人生ゲームを買いました。

子供の頃、人が集まる季節になるとよく遊んだものです。現代版は、職業選択コースにフリーターもある。時代の流れに合わせてゲーム内容が進化している。子供から大人まで一緒に楽しめることは変わらない。ゲームと分かっているながらも真剣になり、その人の性格が見えてくる。パーンを囲んで、笑いあり、ときどき感を味わえる人生ゲームは大人になっても面白い。

(つとむ)

無病息災願いどんど焼き

暖冬で雪がほとんど見られない中、新春恒例の左義長（どんど焼き）が1月10日に水無神社境内で行われました。今年の家族の無病息災を願い、小中学生をはじめ地域の人たち300名ほどが集まりました。

朝から子ども会が中心となって正月のお札や松飾、しめ縄などの飾り物を各地区の家を回り、集めました。丁重な神事後、火が放たれ、次第に火の勢も強くなって燃え上がりました。

神事後は、神社の氏子の人たちからふるまわれた甘酒で、寒さで冷えた体を温めていました。（山腰）



宮中が県スキーで総合優勝

全国中学校体育大会岐阜県予選会が1月14日と15日にわたってほおのき平スキー場（アルペン）と平湯あかんだな特設会場（クロス）で開催され、宮中選手が上位を占めて初めて総合優勝に輝きました。

今冬は雪不足で練習も思うようにできなく、選手や学校をはじめ関係者を悩ましてきましたが、大会当日



県大会の報告に訪れた選手。田邊会長から激励の言葉を受けました

は実力を発揮することができ、素晴らしい成績を残す結果となりました。宮中からは2月3日から北海道富良野市（アルペン）と名寄市（クロス）で開かれる全国中学校スキー大会に6人が出場。また2月10日から富山県平スキー場で行われる東海北陸大会には11人が出場します。

なお、2月20日から岩手県で開催される岩手国体には幅上翔太君が、24日から雲石町で開催される日本ジュニア選手権大会には黒木健斗君と黒木玲名さんが出場します。（中畑）全中大会出場選手「黒木健斗、黒木玲名、渡瀬詩織（以上アルペン）幅上翔太、谷口晴基 役田陽

城陽市「ミセン」が視察

京都府城陽市の市民活動組織である青谷コミュニティセンター運営委員らの一行12人が一之宮まち協を視察に訪れ、まち協本部役員と意見交換を行いました。

城陽市の生涯学習活動は6コミュニティセンターごとに行われ、「コミセン活動」として地域で運営委員会や専門部を組織して、文化・福祉・

環境等で多彩な事業を行っています。意見交流では、高山市の「協働のまちづくり」についての質問が多く出され、環境や体制の違いはあるものの、市民のニーズをどう掘り起こし、対応していくかについて意見を交換しました。

園児が雪上クルージング

体験を通じて子どもたちを育てようという「体験の風をおこそう」の冬季事業が1月28日にモンデウススキー場で行われ、宮保育園の全園児60人がスノーモービルで雪上クルージングを楽しみました。

園児たちは6人のグループごとにタイヤチューブそりに乗り出発。普段の座布団そりとは違い、スノーモービルに引つ張られて雪の上を走るのは初めての体験でスリル満点。どの子ども興奮しながら歓声をあげて喜んでいました。

今年は降雪が少なくて実施が心配されましたが、20日以降にまとまった雪が降ってコースも整備され、「体験の風をおこそう」の最終事業を終えることができました。



歓声を上げてクルージングを楽しむ園児

宮景

出初式

高山市消防団一之宮支団の出初式が1月5日に宮中学校グラウンドで行われました。

毎年行われる出初式にあたり、消防団員である僕がいつも心がけるのは、新年の新たな決意や消防団員の自覚をもって出初式に参加すること・・・ではなくて、いかに寒さをしのいで出初式に臨むか・・・ということです。出初式用の衣装の中にタイツや防寒着を何枚も着込んで、カイロをお腹と背中に2枚ずつ貼ります。

しかし今年の出初式はグラウンドに雪はまったく無く、日差しも暖かなポカポカ陽気。背中に貼ったカイロは熱いくらいで、恒例のうず巻は少し汗ばむ程でした。

暖かいことはありがたいのですが、この異常なまでの暖か

さは気持ち悪くもあります。思えば一年前は過去に記憶のない程の大雪でした。

異常気象による災害など何が起こるか分からない昨今。今年も消防団として気を抜く事ができないなと思った出初式でした。（広報委員：野添一幸）



雪が全く見られない中でうず巻を行う団員